

第3回全国集会（名古屋）と「東海地方の水草展」

浜島 繁隆（高蔵高等学校）

本研究会は「水草同好会」として1979年に発足し、第2回全国集会で現在の「水草研究会」に名称変更をしたので、第3回の集会が衣替えした最初の集会となる。

全国集会を引き受け誰もが苦慮するのは、会場をどこにするかである。全国から集まり易い交通の便、適当な広さと施設のある会場となると、なかなか見つかるものではない。幸い、その頃名古屋で市民に最も親しまれている東山植物園に植物会館が造られ、各種の研究会ができるように研修室が設けられたので、それを借用することにした。会員の脇田晴美氏（故人）と私で当時の園長の坂梨一郎氏にお会いして趣旨を説明して借用の快諾を得ることが出来た。そのとき坂梨園長から研究会を開催する前後の期間に、展示室で水草を展示したらどうかの提案を受けた。

夏休み中で小・中・高生も多く訪れる時期で、しかも暑い季節に涼を呼ぶにふさわしい水草の展示は時宜をえた企画と考え協力することにした。水草を植えるすいれん鉢の準備や栽培は植物園が

担当して、水草の収集は研究会の方で分担し、8月20日～30日までの期間「東海地方の水草展」として開催することが決まった。

水草を集めるのが一番大変なことであるが、その頃は名古屋周辺の会員も少なく、結局、私一人で水草の収集の大役を背負うことになった。この話しが決まったのが6月で約2カ月の間、東海地方の主な水草を集めるための苦労が始まった。その頃、既に水辺の環境が悪くなり、以前に生育を確認した所を訪ねてみると目当ての水草が姿を消していることもしばしばあった。以前から私の家の庭で何種類かの水草を栽培して観察をしていたので、それも持ち込み東海地方の主な水草59種を展示することができた。さらに、植物園で栽培している外国産の水草13種を展示品に加えることができた。また、嬉しいことに、研究会当日、会員の野口達也氏がカヤツリグサ科で水辺に生育する種類27種の生きた標本を持参して下さり、併せて展示することが出来た。このように多くの生きた水草を一度に観察出来る展示は今までになかった



写真1. 第3回全国集会参加者 名古屋東山植物園大温室前（1981. 8. 23）

のではないかと自負している。この展示会の様子は、新聞記事（中日新聞、昭和56年8月21日朝刊）にみる事が出来る。なお、この時の展示品の一覧は会報No.5に掲載しておいた。

さて、第3回の全国集会の内容については、会報No.5に研究発表の講演要旨も掲載されているのでここでは省略するが、開催を引き受けた者には当日の天気が大いに気になるものである。運悪く、台風15号が8月20日頃から近畿地方に接近し、交通機関にも影響を与えるほどになった。このため参加出来なかった会員もあったと思われる。それでも会員25名、会員外15名の40名の参加を得て全国集会は無事終わることが出来た。

全国集会の時、参加者全員の記念写真を撮るのが恒例になっており、その写真を会報に掲載することになっているのに何故か第3回集会だけ欠落

している。多分これは私が報告の原稿を出す時に忘れたのではないかとと思われる。遅れ馳せながら、参加者の写真を掲載することでご容赦願いたい。



写真2. 第3回全国集会 開会前の腹ごしらえ
前右より 角野康郎・大滝末男・別府敏夫・田中 修・太田敬久
後列 浜島繁隆の各氏
(1981. 8. 23 名古屋東山植物園にて)

東海地方に自生の水草ひと目

中日、朝
56.8.21、木

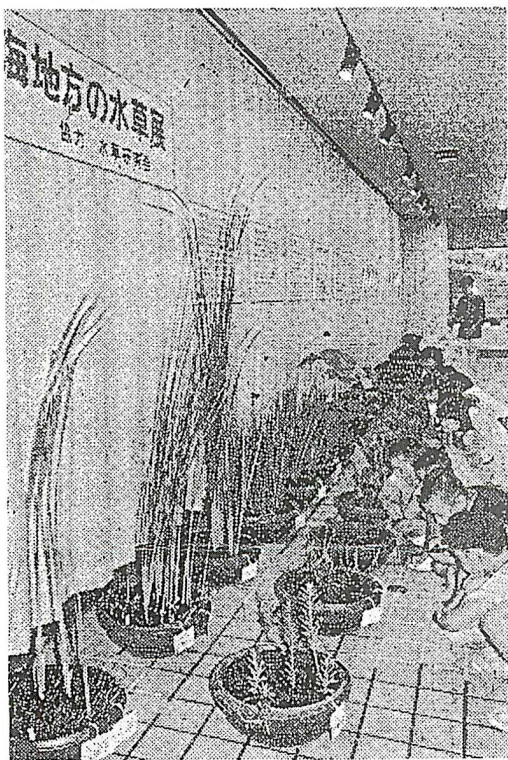
東山植物園で展示

東海地方に自生する水草の展示が、二十日から東山植物園の植物会館で始まった。夏休みもあと十日なり、水草の名前をメモし、生懸命に見学してゆく小学生のグループが目立っている。水草を採集したのは高蔵高校の浜島繁隆君。水草研究会員たち、東海地方各地の小川や池から約五十種類の水草の苗を採集し、ここの五月から同植物園で栽培してきた。

食虫植物 ムジナモ など50種

食虫植物のムジナモ、葉の大きさが直径一、三センチ、コウチグサなど変わった水草も。同植物園の館ではこれら水草も都市周辺の開発に伴い、少しずつ減っている。会場は水ガメが並び、水草も鮮やかな緑色で涼しい。小学生のグループや親子連れが訪れている。

約50種類を展示している水草には涼感が一東山植物園で



第3回全国集会と併せ開催した「東海地方の水草展」を報じる新聞